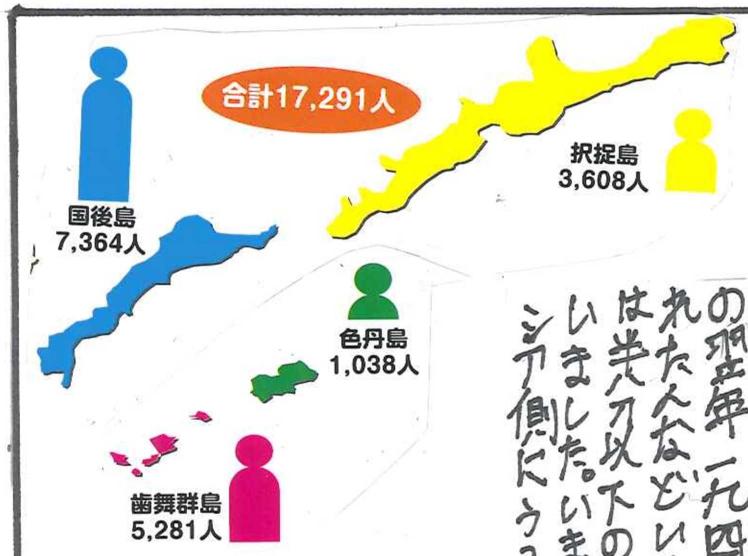
北方領土新聞

石川県
金沢市立
浅野川中学校

北方領土について今知っておきたいこと



3,167km²
1,489km²
249km²
95km²
択捉島
国後島
色丹島
歯舞群島

今回、初めて北方領土のことを勉強する方々に勉強する上での知っておきたいことを説明します。まずは面積を説明します。択捉島三千百六十七km²国後島一四百八十九km²色丹島二百四十九km²歯舞群島九十五km²計五千三km²です。この大きさは福岡県よりも大きいのです。すごいですね。そのたくさんの面積のある島々が終戦後一九四五年八月二十八日ら九月五日までのた九日間でロシアに占領されてしまいました。その後約一万七千人もの人々がある人は船で島を脱出し、北海道の根室に行った人、そのとちゅうでつかまってしまって亡くなった人、占領の翌年一九四六年に強制退去させられた人などいろいろな人が亡くなり今では半分以下の約五千人ほどになってしまいました。いままで日本は四島返かんをロシア側にうったえてきました。でもロシアは二島[illegible]ならと言ってきた。でも、返してもらった島の出身じゃない人はどう思うのでしょうか。他の島が返ってきたからなんだ。自分の出身の島に返りたい人もたくさんいると思うのでぼくは二島返かんではなく四島返かんをうったえぬいた方がよいと思う。

命の大切さ

ぼくはジョバンニの島という映画を見た。その映画を見て命の大切さを知った。そう思ったシーン二つを紹かいしようと思う。まず一つ目はこの映画は銀河鉄道の夜がモチーフになっている。映画の中では他界した母の好きな本だったから主人公の兄弟も毎日読まされていた。物語も終ばんに近づき、弟のかんたが何度か死んでしまいそうになったときに兄の純平が紙を見せて「このきっぷはどこまでも行けるきっぷ」です。などと強く言って目を開けさせようとしていて読みこんでいないとすぐに思い出せないと思うしそれだけたくさん言っていたのですごくその本が好きだったんだなぁという気持ちが伝わってきます。そして二つ目のシーンは兄弟たちが収容されてその収よう所の近くにソ連につかまった父がいることが分かって父に会いに行き父と会えて最初は「帰れ」といわれたけれども鉄条網の間で指と指を合わせて父は額から血を流して「必ず帰るからな」と言って親子のきずなが再確認されました。他にもソ連に家を占領されて馬小屋で暮らしていて電気で動く電車を動かしていてそれにロシア人の女の子が線路[illegible]し出してきてそっから兄弟はロシア人の女の子との友情がめばえ始めました。

ちなみに…
登場人物紹介

じゅんぺい	かんたの兄 先生からも信用されている
かんた	じゅんぺいの弟
ターニャ	ロシア人の女の子。父がソ連隊長
おじさん	かんたとじゅんぺいにいろいろ教えてくれる
父	日本の軍の村の隊長
先生	じゅんぺいとかんたの担任

自分の将来に向けて

高校生の出前講座を受けて北海道の人たちだけががんばるんじゃなくてもっと本州の人たちにも知ってほしい。まずは学校に返ってからみんなにくわしくは分かってもらえなくても少しでも知ってもらえればいいなと思う。そして今は中一だが高校、大学と進む上でできることのはんいが増えてくると思っている。もしも石川県に北方領土の協会があるのならば何か少しでも協力といきたい。もしも北方領土に行けるチャンスなどがもらえるのならば全力で挑んでいきたいと思った。みなさんはどんな事仏活動をしますか？

四島シェアスポット
貝殻島

全国北方領土啓発イベント「四島シェアスポット」

四島での住民交流会（光るどろだんごの制作）

感想

この新聞を書いてみてぼくは書くまで北方領問題のことを軽く考えていました。ですが書いた後にはすごく知識も増えたし思っていた気持ちが変わりました。そしてこれからの生活もがんばってかんえていきたいです。